黄色い鋼鉄船

三岸好太郎

青空文庫

高い北の窓から朗かな光線が流れ、ストーブは居心地よく調節がとれた。整頓されたアトリエで画を描く事は実に気持ちがよい。

一時間、二時間、三時間。

少つとした疲労がくる。ソファーに横になる。ウトウトと眠くなる。安心とつかれが同時に自然な安眠をさそつたのだ。

○

彼等の全勢力を尽して築き上げた鋼鉄の船、エンヂンは完全に燃えて赤い火を吹き、船体は黄色に塗られた。船員は全部赤いジヤケツを身軽に着込み、大きな大きな靴をはいてガンヂヨウに大船に立つて並んでゐる。

船長も居なければ事務長も居ない。パイロツトも居ない。行先さえもわからない彼等の大きな船。

而し彼等は彼等の部処を完全に守れる豊潤な頬を持つた青年達。正に出発をしようとしてゐる。

○

肩を誰かにたゝかれた。

びつくりして目をさます。

真剣な激情的な視線を僕は僕の体中に感じた。

僕はすぐ立ち上つて前進した。

そうしてデスクの上に白い紙を展げ宣言文を書き始めた。

「僕はかねがねからこれ等の人達に魅力を感じ、シツトをほしいまゝにして居たのだ。そうしてそれ等の強い刺戟の中に飛び込む事は、僕にとつて大きな幸ひだ。これ等の精鋭な新人達と共に新芸術の研磨開拓に精進し、新しいゼネレーシヨンの実現に全力を尽す事は、男子一生の仕事として愉快だ。勿論僕は僕達が既知数だとは云ひ得ない。熱と若さとをふくむ未知数なのだ。未知数こそ僕達の友でこそあるのだ。」

○

各員各部処について大いに元気だ。

ドラが鳴つて、スクリユーは十三の急廻転を始めた。

グン〳〵前進。

前進、前進、前進。

この巨大な行先を持たない鋼鉄船は何処まで進むか。

進め、進め、進め、大きな船

幸ひ空には緑色の雲さえも見えない

暴風雨が来ても、如何に強い海流が来ても、警報を出さないこの大きな黄色の船。

或ひは暗礁に乗り上げるとも、

前進、前進、前進。

（「アトリエ」昭和五年十二月）

青空文庫情報

底本：「感情と表現」中央公論美術出版
1983（昭和58）年7月1日発行
初出：「アトリエ」
1930（昭和5）年12月号
入力：かな　とよみ
校正：The Creative CAT
2020年3月28日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

黄色い鋼鉄船

三岸好太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/